



秋田県マスコット
スギッチ



平成二十六年年度企画展

ト雖モ傳記ヲ考

漆及其他油ヲラビヤ護謨等アリ
製法
前条ニ掲ル素質ノ木ヲ能ク干燥シ盤板ヲ拵ル織板
ヲ附ケ四方ノ角ハ布ヲ張附シ下地ヲ作り較皮木賊
ヲ以テ研クテ敷度御衣造用馬ノ揚ル生漆ニテ塗
石ヲ研クテ三度而シテ上々ノ黒漆ニテ塗仕上リ上ア
ラビヤ護謨ヲ以テ画キ土ノ粉ヲ研キ黒漆ノ艶ヲ消
シアラビヤ護謨ヲ洗ヒ落シテ

アークアイブズで 秋田の文化を

探れ!

県民の歌 作曲募集

秋田県民の歌
作曲募集
募集期間：平成二十六年八月二十三日～九月二十三日
募集対象：秋田県民
募集内容：秋田県民の歌の作曲
募集場所：秋田県庁
募集方法：秋田県庁に提出
募集料：なし
募集結果：発表後発表される
募集問い合わせ先：秋田県庁
募集問い合わせ先：秋田県庁
募集問い合わせ先：秋田県庁

品名	数量	単位	備考
...



期間
前期 8月23日(土)～9月23日(火)
後期 10月31日(金)～11月30日(日)
午前10時～午後5時 ※休館日 9月3日(水)
11月5日(水)

秋田県公文書館



ごあいさつ

平成26年度企画展「アーカイブズで秋田の文化を探れ！」にご来場いただき、ありがとうございます。

秋田県公文書館は、歴史的に貴重な公文書や古文書など(アーカイブズ)を県民共有の財産として後世に残すとともに、一般の閲覧利用に供することを目的に設立されました。当館では、皆さまの閲覧利用の一助として膨大な館蔵資料の一端を紹介し、また当館の役割へのご理解を深めていただくため、毎年テーマを設けて企画展を開催しております。

今年の企画展では、「秋田の文化」をテーマに取り上げました。第29回国民文化祭・あきた2014の開催を契機に、文化に関わる館蔵資料を展示して国民文化祭にいささかでも貢献できればとの願いから企画しました。秋田の文化について限られた展示スペースの中で全てを網羅することはできませんが、これを機会に公文書館の資料への関心を高めていただき今後の資料利活用の一助となることを願ってやみません。



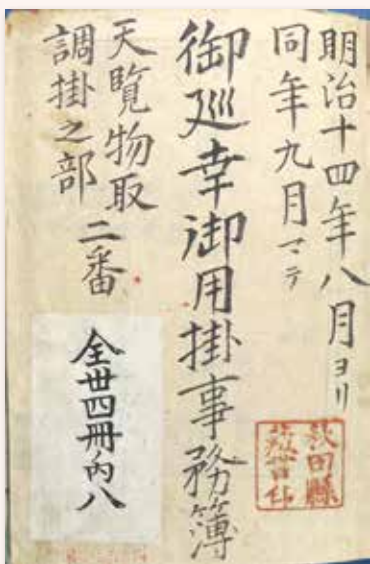
アーカイブズって何?

公文書館(ARCHIVES)と図書館(LIBRARY)と博物館(MUSEUM)は近代国家では文化の三本柱と呼ばれています。主として図書館が刊行された書籍、博物館がモノ資料を扱うのに対し、公文書館は文書や絵図の原本を扱います。アーカイブズの語義には、①記録史料、②公文書館、③国家の公文書記録管理局などがあります。

アーカイブズは、人間の活動した証拠の記録を永久に保存し、将来の活動に役立てるため公開する「社会の記憶装置」の役割を担っています。

公文書館の資料活用術

～「文化を探れ!」編～



明治14年8～9月「御巡幸御用掛事務簿」
天覧物取調掛之部二番 (930103-12011)

行幸・行啓・お成り関係公文書

行幸や行啓、また皇族のお成りに関する公文書は、現在、宮内庁の宮内公文書館ほか多くの公文書館等で閲覧できます。行幸や行啓、お成り際には、地元の伝統行事や芸能が披露され、地元の伝統工芸品や名産食品などが献上されました。関係公文書には、それらの由来や沿革を詳細に記したのも見られ、また現在失われた芸能や工芸も含め戦前の様子が分かります。

博覧会・共進会関係公文書

明治政府は欧米で開催される万国博覧会に参加するとともに、内国勸業博覧会などを開催しました。また各府県は内国勸業博覧会に出展したほか、自ら博覧会や共進会も盛んに開催しています。そのため、多くの公文書館等で関係公文書を閲覧できます。

博覧会や共進会関係の公文書には、伝統工芸品や名産食品の出品願いや出品目録、製造方法、さらには由来や沿革などを記したのも少なからず見られます。



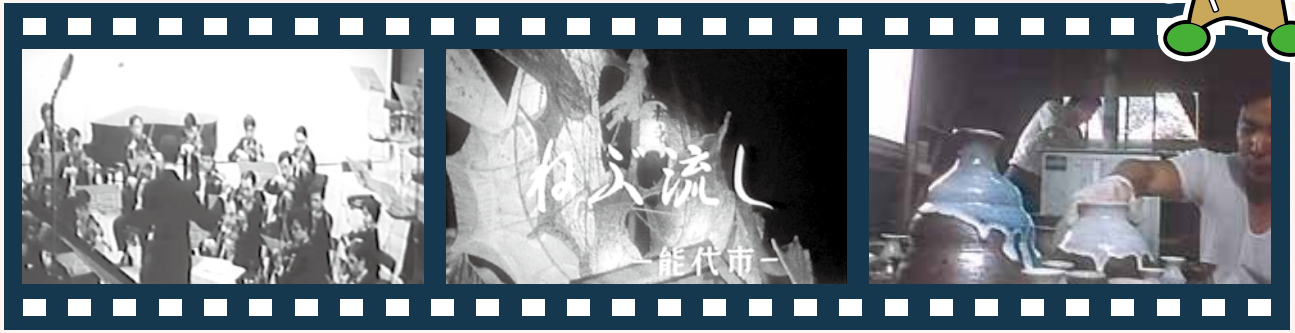
明治31～32年
「第三回奥羽六県連合物産共進會書類」甲
(930103-07855)



文化に関する
記録の宝庫!



県政映画



東京フィルハーモニー交響楽団の公演 (昭和36)

能代ねぶ流し (昭和45)

白岩焼きの復興 (昭和52)

県政映画とは、秋田県が昭和30年(1955)から制作していたニュース映画です。同31年(1956)からは県内各地の常設映画館で上映されました。県政や産業に関するニュースのほか、県内各地の伝統行事や芸能の様子、伝統工芸の作業工程、また、さまざまな文化行事に関しても報道し現在に映像記録を残しています。古い時代の姿を具体的に目で見ることのできる貴重な映像アーカイブズと言えます。

月刊広報誌「あきた」



「あきた」は昭和37年(1962)から平成2年(1990)まで発行されていた総合広報誌です。県庁内にあった秋田県広報協会が、毎月、県や市町村の施策や動きを伝えていました。文化関係の記事やグラビアが充実していたのも大きな特色です。

土木営繕関係公文書

文化の殿堂となった戦前の県公会堂と県記念会館、戦後の県民会館については、土木営繕関係の公文書に設計書や図面が綴じられています。右の青写真は県公会堂の側面図で、かつての外観が分かります。



大正4~7年度「記念館建築費本年度支出額節工事監督
其他諸費支出関係及雑件書類」(930103-06231)

史跡等調査関係公文書

大正8年(1919)「史蹟名勝天然紀念物保存法」制定後、同10年(1921)に県史蹟名勝天然紀念物調査会が活動を始めました。右写真の簿冊には、金沢柵址の調査や久保田城址の保存に関する公文書ほか綴じられており、当時の史跡の状況が分かります。

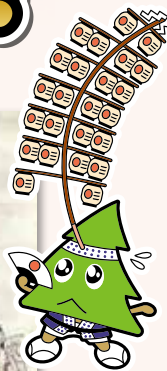


大正10年
「史蹟名勝天然紀念物関係書類」
(930103-03993)

県史編纂関係公文書



秋田県の県史は、大正時代と昭和時代の2度編纂されています。昭和版『秋田県史』編纂関係の公文書は、事務簿冊から原稿まで公文書館に大量に保管されています。



竿 灯 (秋田市)

竿灯は東北三大祭りの一つとして知られ、現在8月3日から6日にかけて開催されています。太鼓や笛の囃子につれて、大若・小若などの竿灯を掛け声とともに手のひらや肩、腰、額などに移動し妙技を競い合います。

右の絵は「風俗問状答」にある1枚で、藩政時代の竿灯行事をビジュアルに記録した貴重なアーカイブズと言えます。このほか展示では、昭和6年(1931)の澄宮(後の三笠宮)崇仁親王お成り時に用意された竿灯の写真絵葉書、同40年(1965)の県政映画から竿灯の映像記録なども紹介します。



「風俗問状答」3 (混架7-576-3)



昭和45年9月
「県政ニュース」No.129
(DVD-00132)

大正14年
「皇太子殿下行啓関係書類」二ノ二
(930103-12137)

ねぶながし (能代市)

能代のねぶながしは8月初めに行われ、夜空に浮かび上がる高く大きな城郭灯籠で見る者を圧倒します。藩政時代の灯籠はさまざまな形でしたが、天保の頃(19世紀前半)にシャチをのせた城郭型が考案され、現在に受け継がれています。町の大通りをねり歩いた後には、シャチの部分を燃やして米代川に流します。

左の公文書は、大正14年(1925)の皇太子裕仁親王(後の昭和天皇)行啓時、ねぶながし行事を解説した際の内容です。また写真は、昭和45年(1970)夏にねぶながしの城郭灯籠を撮影した県政映画の一部で、約半世紀前の貴重な映像を現在に残しています。

西馬音内盆踊り (羽後町)



昭和36年9月「県政ニュース」No.36 (DVD-00039)

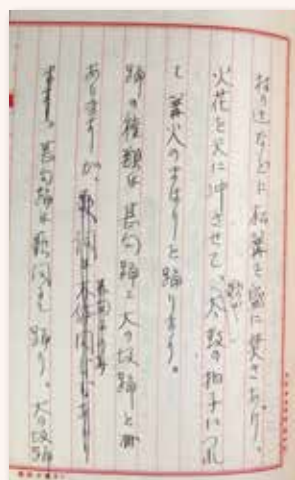
西馬音内の盆踊りは日本三大盆踊りの一つに数えられ、踊りや衣装に古い形を残しています。端縫いの衣装、編み笠や黒い布で顔を覆った彦三頭巾などが特徴的で、ガンケオドリと称し亡くなった人を象徴した姿とも言われています。

写真は昭和30年代の盆踊りを撮影した県政映画で、彦三頭巾姿の踊り手を映像に記録しています。

毛馬内盆踊り (鹿角市)

毛馬内盆踊りには、太鼓に合わせて踊る「犬の坂」と、唄のみで踊る「甚句」の二つがあります。「犬の坂」では、直径1.5メートルほどの大太鼓が使われます。

右の公文書は、昭和11年(1936)の秩父宮雍仁親王お成り時に説明した際の内容で、歌や太鼓の拍子につれて火花の上がる篝火のまわりを踊る様子を記しています。



昭和11年「秩父宮殿下御成関係書類」
全一 (930103-11958)





昭和6年「澄宮殿下御成関係書類」全一 (930103-11950)

飾山ばやし (仙北市)

仙北市角館の成就院薬師堂の祭りの飾山ばやしは、毎年9月7日から9日にかけて行われます。薬師堂の祭礼は藩政時代から記録に登場し、明治になり神明社の祭も合同しました。

左の公文書は澄宮崇仁親王のお成り時に飾山ばやしを披露した際の説明原稿の一部で、飾山と呼ばれる山車の上で楽を奏し踊る様子を記しています。また、当時、踊り子として女子青年団員が着物姿で飾山に乗っていたこともわかります。



角館の飾山ばやし (写真:仙北市提供)



昭和11年「秩父宮殿下御成関係書類」全一 (930103-11958)

大日堂舞楽 (鹿角市)



大日堂舞楽は、鹿角市八幡平小豆沢地区の大日靈貴神社(大日堂)の祭礼で演じられます。正月2日未明から午後にかけて、大里・谷内・小豆沢・長嶺の能衆と呼ばれる楽人が集まり田楽や舞楽を奉納します。

左の写真は秩父宮雍仁親王お成り時の説明資料に添付された「大日靈貴神社写真帳」の1枚で、谷内村の五大尊舞のものです。約80年前の舞楽の様子が視覚的に分かります。



森岳歌舞伎 (三種町)

本来の役者ではない地元の人達によって演じられる歌舞伎芝居は地歌舞伎と呼ばれ、江戸時代から祭礼などと結びついて全国各地に伝わっています。

森岳歌舞伎も地歌舞伎の一つで、森岳八幡神社の祭礼で行われてきました。現在は9月中旬に同神社境内の農村歌舞伎会館において奉納演舞されています。

右の写真は昭和45年(1970)の県政映画の映像で、森岳歌舞伎について楽屋での化粧から舞台での演舞までをドキュメンタリー風に記録したものです。



昭和45年10月「県政ニュース」No.130 (DVD-00133)

※山本町は平成18年に琴丘町、八竜町と合併して三種町になりました。



川連漆器 (湯沢市)

川連漆器は湯沢市川連の名産品で、ていねいな下地塗り、右の写真で見えるような沈金、蒔絵の高い技術で全国的に知られています。川連を囲む山々は漆の木が豊富で、食器など日用品の製造以前は、鎧など武具を塗っていたと言われます。

右の公文書には、文化年間(19世紀初頭)、耕地が少ない川連村の経済を維持するため、高橋利兵衛家が資金を投じ一村挙げて漆器製造業を振興した沿革が記されています。博覧会の出品説明書には、藩政期以来の物産の由来を整理したものが多く、数十年前の藩政期の記憶を反映したものも少なくありません。



昭和52年4月「新県政ニュース」No.34 (DVD-00170)



明治22年「第一部農商課事務簿」第三回国内勤業博覧会之部十番 (930103-07842)

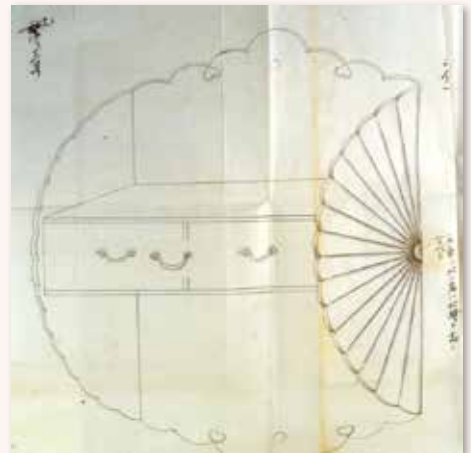
春慶塗 (能代市)

能代春慶塗は、飛騨春慶(岐阜)や栗野春慶(茨城)とともに日本三大春慶塗に数えられています。春慶塗の特色は木地が透けて見える美しさにあり、能代のものは色合いから黄春慶と呼ばれています。

明治6年(1873)のウィーン万博にも出品され、高い評価を得て受賞しました。明治政府は同9年(1876)のフィラデルフィア万博には前回以上に力を入れ、出品用の能代春慶塗の製作を秋田県に依頼しました。右は製作依頼書に添付されたものの一枚で、依頼書では「状箱棚」と記されています。



能代春慶塗の数々(写真:能代市提供)



明治7年1月~8年12月「第二課諸務掛事務簿」博覧会及雑ノ部 (930103-07779)



「あきた」昭和47年11月号 (930103-50997)

樺細工 (仙北市)

仙北市角館の樺細工は山桜の樹皮を木地に貼り加工したもので、天明年間(18世紀後半)に下級武士の手内職から始まりました。当初は印籠や胴乱などが作られていました。今では茶筒や文箱、盆などの他、タイピンやブローチなど現代的な製品も作られています。

今回の展示では、文化年間(19世紀初頭)の「北家御日記」(角館所預佐竹北家の日記)にある樺細工に関する記録、大正14年(1925)の皇太子裕仁親王(後の昭和天皇)行啓時に北家当主が樺細工を献上した際の説明書などを紹介します。

また左の写真は、月刊広報誌「あきた」のグラビアで紹介された角館中学校の樺細工クラブの活動風景です。当時、後継者不足の樺細工業界にも歓迎され、卒業したクラブ員の中には樺細工作りの道に進んだ方もいたそうです。



明治14年8~9月「御巡幸御用掛事務簿」
天覧物取調掛之部二番 (930103-12011)



秋田万古焼の急須
(写真:秋田市立
千秋美術館提供)

万古焼 (秋田市)

万古焼は、元文年間(18世紀前半)に伊勢国桑名で始まり、一時中断しましたが、天保年間(19世紀前半)に再興し、その後秋田をはじめ各地に伝播しました。素焼きや茶褐色の急須がよく知られています。

明治14年(1881)の天皇巡幸時には、秋田保戸野新橋町の高橋伴以が万古焼の製造所の天覧を願い出ています。左の絵はその願書に添えられたもので、万古焼の製造工程を視覚的に説明しており、当時の製造作業の様子を現在に伝えています。



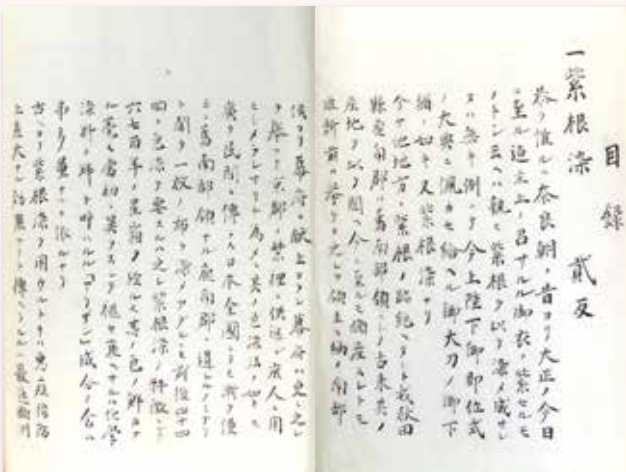
楢岡焼 (大仙市)

大仙市南外の名産品である楢岡焼は、文久3年(1863)に秋田の寺内焼に学んだ小松清治が創業したと伝えられています。楢岡焼の特色は、青々とした色彩を出す上薬(海鼠釉)を使うことです。近年は茶器や徳利、甕などの伝統的な製品の他、現代的なコーヒーカップなども製造されています。

右の写真は、昭和30年代の県政映画で紹介された4代目小松幸一郎による製陶作業の様子です。現在、楢岡焼の製陶には電動式のロクロを使用していますが、当時は手で回す蹴ロクロが残っていました。映画では、蹴ロクロを使った成形作業の映像が克明に記録されており、名工の技術を目で見ることができます。



昭和35年9月「県政ニュース」No.29 (DVD-00032)



大正10年「淳宮高松宮両殿下御成関係書類」(930103-12120)

紫根染 (鹿角市)

紫根染は、多年草「ムラサキ」の根を用いて染めるもので「かづのむらさき」と称し、高貴な色として使われてきました。

左の公文書は、大正10年(1921)の淳宮雍仁親王と高松宮宣仁親王のお成り時に紫根染2反を献上した際の目録で、当時国内で紫根染の生産地が鹿角郡のみだったこと、藩政時代に鹿角郡を領した南部藩から幕府を介し朝廷に献上されていたこと、化学成分のことなどが記されています。



紫根染
(写真:秋田県立博物館提供)

前
期
展
示

「秋田県民歌」の誕生を

探れ!



昭和5年7~12月「秋田県報」下巻
(県報-00097)

「秋田県民歌」は、昭和5年(1930)に教育勅語発布40年記念として、愛郷心を発揮せしめ、老若男女県民の心情を一体化し融和させる目的で制定されました。浜口雄幸内閣が進めた教化総動員運動の一環であり、市町村民歌の制定も奨励していました。

歌詞は、県が1等30円・2等20円・3等10円の賞金をつけて一般募集しました。審査の結果、1等は該当なく、2等1作品、3等2作品、佳作2作品が選ばれ、最終審査のため東京音楽学校に送られました。最終審査では、3等の倉田政嗣(仙北郡横沢村:現大仙市)の作品(左)が選ばれ、「春の小川」の高野辰之が補作して現在の形になりました。作曲は「浜辺の歌」の成田為三(秋田県出身)が担当しました。

1 秀麗無比なる 鳥海山よ
狂瀾吼え立つ 男鹿半島よ
神祕の十和田は 田沢と共に
世界に名を得し 誇の湖水
山水皆これ 詩の国秋田

2 廻らす山山 霊気をこめて
斧の音響かぬ 千古の美林
地下なる鉱脈 無限の宝庫
見渡す広野は 渺茫霞み
黄金と笑りて 豊けき秋田

3 篤胤信淵 巨人の訓
久遠に輝く 北斗と高く
錦旗を護りし 戊辰の栄は
矢留の城頭 花とぞ薫る
歴史はかぐわし 誉の秋田

4 民俗勝れて 質実剛毅
正義と自治の さとしを体し
人材遍く 育みなして
燦たる理想に 燃え起つ我等
至純の郷土と 拓かん秋田

「秋田県民歌」歌詞

後
期
展
示

「県民の歌」の誕生を

探れ!



「県民の歌」は、昭和34年(1959)に県章とともに公募されました。前年に八郎潟干拓が着工、この年には小畑勇二郎知事が再選され新県庁舎も落成し、さらに翌々年には国体の開催も控えていました。高度成長時代を迎えた明るい世相を背景に、歌詞の公募では「明るく楽しく軽い気持ち」で歌えることが重視されました。歌詞は北秋田郡森吉町(現北秋田市)の大久保笑子氏の作品が選ばれました。応募作品では1番の出だしは「小鳥の声にはね起きて」でしたが、県民の歌選定委員会で補作し、現在の歌詞になりました。歌詞が決定すると、次に楽曲も公募されました。右のポスターはこの時のもので、県内を中心に約1,800枚配布されています。楽曲は、秋田市の菅原良昭氏の作品が選ばれました。右下の写真は菅原氏の応募作品と応募時の封筒で、これらも貴重なアーカイブズとして公文書館で保存しています。



1 朝あけ雲の 色はえて
仰ぐはるかな 山々よ
つらなる町も みどりの村も
平和の光 みちている
あなあこがれのわが秋田
みんな で みんなで 歌おうよ

2 流れは大地 うるおして
資源は稲穂よ すぎの香よ
希望の力 たかく わきでる 油田
ああ産業の わが秋田
みんな で みんなで 伸ばそうよ

3 湖深く 海ひらけ
雪にきたえて すこやかに
働く日々も いこいの夜も
文化のめぐみ 語り合う
ああしあわせの わが秋田
みんな で みんなで 進もうよ

「県民の歌」歌詞



昭和35年度
「県民の歌・県旗・県章関係綴」
(930103-30550)



前
期
展
示

県史編纂を

探れ!

戦
前
編

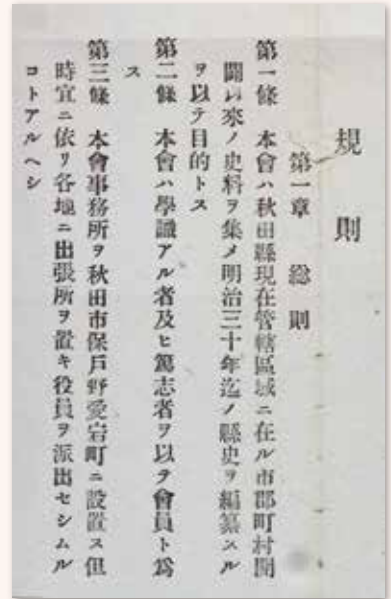
戦前には2度、県史編纂の計画がありました。一度目は、明治29年(1896)12月県会での川村養助議員による提案を発端とします。これをうけて県会では、学識経験者を中心に「秋田県史編纂会」を組織させ、県の補助金で事業を進めることを決議しました。右は秋田県史編纂会規則で、県内市郡町村から歴史資料を集め、同30年(1897)までの県史を編纂することを定めています。この“明治版『秋田県史』計画”では、通史10巻、地誌111巻、附録5巻の刊行の予定でしたが、資料収集に手間取り、同37年(1904)以後は公文書から編纂事業の記録が見られなくなります。

二度目は、同42年(1909)12月県会での森正隆知事による提案から始まりました。森知事の案では、上巻(藩政通史)と下巻(県政通史)の2巻を3年間で刊行する予定で、事業は翌年から開始されました。写真の人物は編纂作業を囑託された長井行(金風)です。今回も資料収集に時間がかかり、県会

で事業の遅れを糾弾されています。このため県では、大正4年(1915)に早稲田大学教授の吉田東伍に原稿の整理を依頼しました。吉田は「藩治部」7巻と「県治部」4巻で再構成し、同年に「藩治部」3巻、翌々年に「県治部」4巻を刊行しました。これが大正版『秋田県史』です。しかし、「藩治部」残り4巻は吉田の急死により未刊行となりました。



「あきた」昭和41年11月号
(930103-50992)



明治30年3~6月「第三課学務係事務簿」
学校経済之部二番 (930103-03405)

後
期
展
示

県史編纂を

探れ!

戦
後
編



昭和31年「県史関係綴」
(930103-50427)

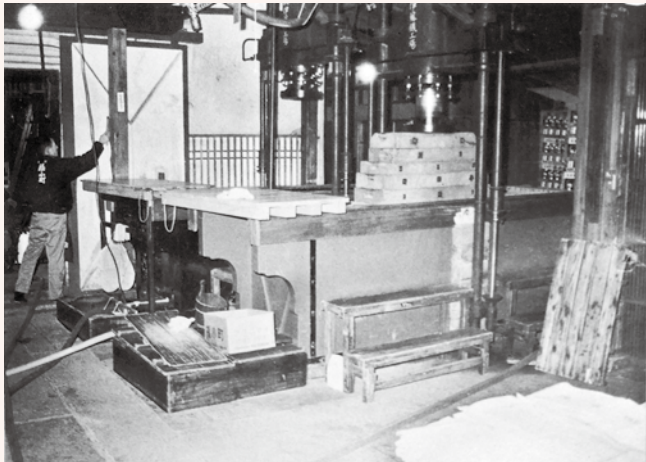
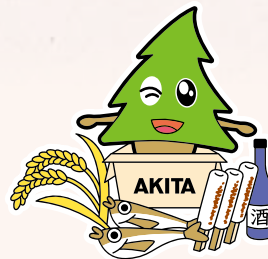
昭和版『秋田県史』の編纂事業は、昭和31年(1956)、小畑勇二郎知事の任期2年目に本格的に始まりました。当初は大正版『秋田県史』の続編を作る計画でしたが、同31年度の県史編纂委員会で検討した結果、古代から近代までの通史編と資料編で構成することになりました。初めて全時代を網羅した県史が計画されたこととなります。また、左の公文書は同31年6月9日の委員会会議録で、半田市太郎委員(秋田大学教授)が資料編の必要性を訴えています。半田委員は同25年(1950)に県庁書庫で「羽羽一國御絵図」ほか貴重な古文書や公文書が再発見された際に資料調査を行いました。これら資料は、県史編纂では資料編や通史編に活用されています。

昭和版『秋田県史』は同40年(1965)に全16巻の刊行を終えました。下の写真は、県史刊行記念展示会の様子を県政映画で報道したものです。県史編纂に使われたアーカイブズの数々が一般に公開されました。



昭和40年9月
「県政ニュース」No.72
(DVD-00075)





「あきた」昭和48年2月号 (930103-50998)

清酒

米どころの秋田は酒どころでもあり、清酒の博覧会への出品、行幸・行啓・お成り時の献上品などの記録が戦前から数多く残っています。

左の写真は、月刊広報誌「あきた」のグラビアに掲載された湯沢市内の酒蔵です。1年中で最も気温が低い寒の季節、酒造りの最盛期です。写真は酒袋の中に醗酵を終えた麴を入れ、槽の中に並べて上から力を加えて絞り、酒と酒粕を分けている工程です。昔の槽は重しを乗せて絞っていましたが、写真を見ると上部に圧搾機が取り付けられています。昭和40年代末には、古い酒蔵でも部分的に機械化が進んでいた様子が分かります。

稲庭うどん

稲庭うどんは湯沢市稲庭名産の手延べ製法の干うどんで、細く平たい麺の形が特徴です。香川県の讃岐うどんと並び全国的に知られています。江戸時代の記録にも贈答品や献上品として登場します。明治以後の行幸・行啓・お成り時の記録には献上品として、また博覧会や共進会の記録には出品物としてよく目にします。

右の公文書は、明治23年(1890)に東京の上野公園を会場に開催された第3回内国勸業博覧会に、雄勝郡稲庭村の佐藤養助が出品した稲庭干うどん他製品の目録です。

品名	数量	備考
稲庭干うどん	全	産地別産物稲庭村稲庭産
稲庭うどん	全	産地別産物稲庭村稲庭産
稲庭うどん	全	産地別産物稲庭村稲庭産
稲庭うどん	全	産地別産物稲庭村稲庭産
稲庭うどん	全	産地別産物稲庭村稲庭産
稲庭うどん	全	産地別産物稲庭村稲庭産
稲庭うどん	全	産地別産物稲庭村稲庭産
稲庭うどん	全	産地別産物稲庭村稲庭産
稲庭うどん	全	産地別産物稲庭村稲庭産
稲庭うどん	全	産地別産物稲庭村稲庭産
稲庭うどん	全	産地別産物稲庭村稲庭産
稲庭うどん	全	産地別産物稲庭村稲庭産

出品主 佐藤養助

明治22年7~8月
「第一部農商課事務簿」
第三回内国勸業博覧会之部八番
(930103-07840)



「あきた」昭和53年2月号 (930103-51000)

きりたんぼ

きりたんぼは、形が檜のタンポに似ていることが名前の由来と言われます。

左の写真は、昭和50年代の月刊広報誌「あきた」に掲載されたグラビア「手作りの旅」の一コマで、旅行者がきりたんぼ作りを体験している様子です。この後、自分で手作りしたきりたんぼを鍋にして食べるという、体験型の観光イベントでした。

後期
展示

史跡の保存調査を

探れ!

明治42年(1909)の地方官会議で、内務省が府県知事に史跡や名勝地の調査保存に関して指示をしました。明治30年代以後、土地開発が進み各地で史跡や名勝が消滅しつつあったためです。同44年(1911)には徳川頼倫らによる「史蹟及び天然紀念物ニ関スル建議案」が貴衆両院を通過しました。そして、大正8年(1919)に「史蹟名勝天然紀念物保存法」が制定されました。同10年(1921)には内務大臣による史跡の指定が始まり、同年、秋田県史蹟名勝天然紀念物調査会が発足し、県内各地の調査を始めています。

右の公文書は、調査会委員で郷土史家の深澤多市が大正10年(1921)9月に、後三年の役ゆかりの金沢柵址を調査した報告書です。金沢八幡神社で神宝の犬般若波羅蜜多經(現県指定有形文化財)を見たこと、雨天の中、金沢柵址を歩いたことなどを記しています。



昭和34年8月「県政ニュース」No.22 (DVD-00025)

戦後は昭和25年(1950)に「文化財保護法」が制定され、県内でも、史跡の調査や文化財指定が進みました。

同14年(1939)に国の史跡となった古代の秋田城跡は、同34年(1959)に国の文化財保護委員会や学会関係者により4か年計画で大規模な発掘調査が行われました。左の写真は、県政映画の一部で出土品の映像です。



大正10年「史蹟名勝天然紀念物関係書類」(930103-03993)

前期
展示

後期
展示

文化の殿堂を

探れ!



大正7年度
「記念会館及図書館設備費支出関係書類」
(930103-06233)

前期展示では「文化の殿堂」として、明治34年(1901)に建設の秋田県公会堂、そして大正7年(1918)に建設の秋田県記念会館を紹介します。県公会堂は明治の建築界におけるフランス派のリーダー片山東熊、県記念会館はイギリス派のリーダー辰野金吾が設計に関わりました。片山は赤坂離宮(迎賓館)、辰野は東京駅の設計で知られています。県公会堂と県記念会館は渡り廊下で結ばれる予定でしたが、県記念会館の完成直前に県公会堂が失火で焼失しました。以後、昭和30年代半ばまで県記念会館が文化の殿堂の役割をにない、演劇その他文化活動が開催されました。

左は県記念会館の設計関係簿冊に入っていたカーテン等布地の見本です。公文書の中には、ごくまれに文書以外の物が添付されていることもあり、まるでタイムカプセルを開いたような感動を与えてくれます。

後期展示では、昭和28年(1953)に米国から秋田県に移譲された日米文化会館と、同36年(1961)に建設された秋田県民会館を紹介します。

日米文化会館の前身は、GHQが設置した秋田CIE図書館(後にアメリカ文化センター)でした。日米文化会館になって以後、従来の英米書籍等の公開の他、各種文化行事や催事に会場を提供しました。

昭和36年、老朽化した県記念会館に替わり、県民会館が開館し新たな文化の殿堂となり、現在に至っています。右の写真は、県民会館の開館を報道した県政映画の一部で、日本舞踊藤間流の藤間紫による「京鹿子娘道成寺」の記念公演の映像です。



昭和36年12月「県政ニュース」No.38 (DVD-00041)

●展示資料一覧●

コーナー	年代	西暦	資料名	前期・後期	資料番号
伝統行事芸能	不明		「風俗問状答」3	前期	混架7-576-3
	享和元	1801	「北家御日記」五五一	前期	AK212-1-551
	明治14	1881	「御巡幸御用掛事務簿」天覧物取調掛之部二番	前期・後期	930103-12011
	大正14	1925	「皇太子殿下行啓関係書類」二ノ二	前期	930103-12137
	大正14	1925	「伏見宮博義王殿下御成関係書類」附第二艦隊寄港関係	前期	930103-12145
	昭和07	1932	「伏見宮博義王殿下御成関係書類」全一	前期	930103-11949
	昭和11	1936	「秩父宮殿下御成関係書類」全一	前期・後期	930103-11958
	昭和11	1936	「秩父宮殿下同妃殿下御成関係書類」	前期・後期	930103-11963
伝統工芸	昭和34 ～52	1959～ 1977	「県政ニュース」No.22、29、36、38、57、72、108、129、130 「新県政ニュース」No.34、36	前期・後期	DVD-00025等
	文化11	1814	「北家御日記」五八六	後期	AK212-1-586
	明治09	1876	「第二課諸務掛事務簿」博覧会社及雑ノ部壹番	後期	930103-07780
	明治08	1875	「第二課諸務掛事務簿」博覧会及雑ノ部	後期	930103-07779
	明治22	1889	「第一部農商課事務簿」第三回内国勲業博覧会之部十番	後期	930103-07842
	大正04	1915	「拜謁関係」閑院宮、伏見宮、北白川宮各殿下	後期	930103-12108
	大正10	1921	「淳宮高松宮両殿下御成関係書類」	後期	930103-12120
	大正14	1925	「献上願書」	後期	930103-01655
	昭和19	1944	「朝香宮鳩彦王殿下御成関係書類」全	後期	930103-11970
	昭和39 ～53	1964～ 1978	昭和39、41～44、46～48、51、53年「あきた」	前期・後期	930103-50990、 50992～51000
秋田県民歌、 県民の歌	昭和04	1929	「秋田県報」	前期	県報-00093
	昭和05	1930	「秋田県報」下巻	前期	県報-00097
	昭和05	1930	「秋田県民歌」（秋田県立図書館所蔵）	前期	A767-60
	昭和07	1932	「秋田県青少年歌謡集」	前期	930103-12441
	昭和35	1960	「県民の歌・県旗・県章関係綴」	後期	930103-30550
	昭和50	1975	「県の記念日関係綴」（二）	前期	930102-30091
	昭和53	1978	「～地方自治30周年記念～伸びゆく秋田（第一部）」	後期	DVD-00230
県史編纂	明治22	1889	「秋田県略史」巻首	前期	930103-12250
	明治30	1897	「第三課学務係事務簿」学校経済之部二番	前期	930103-03405
	明治31	1898	「第三課学務係事務簿」学校経済之部壹番	前期	930103-03407
	大正05	1916	「県史刊行資料」普通農事、農事試験場、県農会、米穀検査所	前期	930103-06670
	昭和25	1950	「県庁所蔵貴重資料展関係書類」	後期	930103-50459
	昭和31	1956	「県史関係綴」	後期	930103-50427
	昭和33	1958	「県史関係簿冊目録」	後期	930103-50464
	昭和35	1960	「県史原稿（原稿）」	後期	930103-50674
食文化	安政02	1855	「宇都宮孟綱旅中日記」	前期	AS292-1
	明治22	1889	「第一部農商課事務簿」第三回内国勲業博覧会之部八番	前期	930103-07840
	明治22	1889	「第一部農商課事務簿」第三回内国勲業博覧会之部十三番	前期	930103-07845
	明治32	1899	「第三回奥羽六県連合物産共進会書類」甲	前期・後期	930103-07855
	明治45	1912	「閑院宮載仁親王殿下御成関係書類」全	前期	930103-12048
	大正02	1913	「閑院宮載仁親王殿下御成関係書類」全	前期	930103-12110
	昭和16	1941	「閑院宮載仁親王殿下御成関係書類」共三ノ一	前期・後期	930103-11981
史跡 保存調査の	明治42	1909	「地方官会議関係書類」	後期	930103-08789
	明治44	1911	「民政史料」	後期	930103-08870
	大正11	1922	「史蹟名勝天然記念物関係書類」	後期	930103-03993
	昭和06	1931	「澄宮殿下御成関係書類」全一	前期・後期	930103-11950
	昭和09	1934	「東伏見宮妃殿下御成関係書類」共二ノ二	後期	930103-11955
文化の殿堂	明治35	1902	「県公会堂建築費決議綴」	前期	930103-06216
	大正07	1918	「記念館建築費本年度支出額節工事監督其他諸費支出関係及雑件書類」	前期	930103-06231
	大正07	1918	「記念会館及図書館設備費支出関係書類」	前期	930103-06233
	昭和27	1952	「日米文化会館設置関係綴」	後期	930103-30528
	昭和31	1956	「日米文化会館考査結果綴」	後期	930103-20776
	昭和36	1961	「秋田県民会館建築工事設計図」（1）	後期	930103-10807
	昭和36	1961	「秋田県公報」	後期	県報-00213
	昭和34	1959	「県政ニュース」No.20	後期	DVD-00023
エトセトラ	昭和44	1969	「県政ニュース」No.116	後期	DVD-00116
	昭和44	1969	「秋田農業大博覧会（八郎潟干拓記念）」	後期	930103-51046
	昭和55	1980	「無形民俗文化財猿倉人形芝居に生きる」	後期	DVD-00238

秋田県公文書館

〒010-0952 秋田県秋田市山王新町14-31
TEL：018-866-8301 FAX：018-866-8303
URL：http://www.pref.akita.lg.jp/kobunsoyo/